

【ねがいましては】

平成24年5月25日

KYOWA SCHOOL

第259号

「もどれない」

原発の問題が論議されています。結論の出しにくい難しい問題です。

一度踏み込んでしまったら、なかなか元に戻れないこと……。

子どもたちを取り巻く環境の中で、それに似た現象があります。

『テスト』です。以前より【ねがいましては】で触れることの多かったこの問題が、とても良く似ていると感じました。

高度経済成長の土台となった原発、地域の住民の方々に多くの雇用を生み出し、それまで過疎化が進んでいた町は、原発の登場で豊かな町へと変貌を遂げていきます。言えること……もし原発がなくなったら、それまで生活を支えていた働く場所はなくなり、あっという間に豊かな町は、寂れた町へと変化してしまうでしょう。

子どもたちにとってのテストも同様な危険性を含んでいると感じます。

小学校入学時点から『テスト』(成績)と係わってきた子どもたち、必然的に勉強はテストのためにあるものと受け入れていきます。それを助長するのが『親のひと言』。「なぜこんな簡単どころがわからないの……。」「こんどこんなひどい点を取ってきたら、お小遣いなしにするからね。」「もし、今度のテストでいい点取ったら、ゲーム買ってあげるからね。」「携帯買ってあげるからね。」などなど、テストの裏側にかかわる様々な条件が、ますます子どもたちに、テストプレッシャーを重ねていきます。

そうか、テストで良い点を取ればいいんだ……当たり前な反応。

社会で働く人々の間でも同様です。良い成績(売り上げ)を確保すれば、出世街道まっしぐら、賃金の上昇が見込めることになります。

ただその裏で、失っていくものも大きいと思います。人としての基本、思いやりやさしさが欠落、そのような感情に至った子供たちが多くなると、とたんに教室のムードは陰険なものになってしまうかもしれません。すでに多く発生しているのかもしれない。

ある日、生徒の一人が話してくれたことがあります。

「先生、今日ね、学校の授業で、まちがえたの……。そうしたらね、周りの子たちが喜ぶの……。」

その子は、学校の定期テストで学年1位をとった経験を持つ子なのですが、大きな悲劇を味わっています。そのような授業をなさっている先生は、どうお感じになられたのか……。その時、どのような対処をなさったのか……。努力の結果が、他人からの罵声に変化している現実、『人』へと成長する大切な時期に、心の成長がないがしろにされていること。私はとても大きな問題だと思うのです。

では、テストをなくしてしまったら、おそらく子どもたちは全く勉強をしなくなると思います。勉強はテストのためにあるものとして、第一歩から歩んできた子どもたちの心には、それ以外の感情は、もはや失われています。

「テストがなければ、勉強しなくてもいいんだ……。」子どもに罪はまったくありません。罪は制度そのもの、先生方にも罪はありません。制度の中で働いていらっしゃる先生方の疲れは、毎日ピークに達しているといえます。自分の健康を支えるのが精一杯、という方が多いものと感じています。

もどれない制度がそこにはあります。一度踏み入れたら、削除するのに無限大の労力を必要とする問題だと感じます。

原発の問題がどのように収束するのか、静観するしかないのかもしれない。

ただ、子どもたちへのこの問題は、静観視する必要はないと思います。私は、この小さな教室の中で起こる、子どもたちの変化を長年見つめてきました。5年前、あれほどおびえた表情で学校へ行っていた子が、今や楽しいー！と言って数学に夢中になっています。その子は6年生です。テストも成績も全く関係のない、6年生にとっての数学です。結果を気にしないでいい世界があります。のびのびと向かう姿があります。やはり中学生たちのほうが、表情は硬くなります。迫ってくる定期テストへ向けての取り組みは、結果重視の世界です。「どうしよう、どうしよう……。」

テストのない世界、現状の教育制度の中では、不可能に近い世界です。しかしこれは公教育の中にあつての結論です。この小さな空間に広がる子どもたちの表情は、「私たちに任せて下さい。幸せが漂う世の中にしていきます。人々が助け合い、支え合い、いつも笑顔でいられる社会にしていきます。」といった意気込みを感じさせます。

今まさに、勉強に痛めつけられて、生きる希望を失ってしまった子どもたちへ、見せてあげたい表情がここにはあります。全員とはなかなか行かないけれど、安心して自分のペースで取り組む子たちの表情があります。

ひとりひとりが全く違うところを取り組んでいます。競争はありません。テストもありません。

勉強は自分の世界の中で、じっくりと味わうものです。その土台をつくってあげることが、『ひと』になるための必要条件ではと感じています。

勉強は競争ではありません。なぜか、競争する相手がいなくなったら、あなたならどうしますか……？

とたんに勉強しなくなるでしょう。勉強は自分の世界を楽しむものなのです。そんな気持ちで向かえるところが、本当の本物の『学校』ではないでしょうか。